

平成26年度 校内研修会 自評

研究主題

自ら考え、意欲的に学び合う児童の育成

— ICTの効果的活用を通して—

平成26年12月17日(水)	<単元名>わたしたちの願いを実現する政治
第5校時 6年	<授業者>田崎 玲子

1 本時と研究主題との関連(研究主題に迫るために目指す授業(実行したこと)・理由)

- ・子供たちの一番関心の高い「消費税」についてパソコン上で話し合うことを本単元の導入として意図的に位置づけ本時を展開することにより、以後の学習が見通しを持って展開できるように考えた。
- ・「消費税を上げるべきか？」を考える本時の学習課題を展開する上で、口頭での話し合いが苦手な児童も自ら進んで話し合いに参加できるように、パソコンソフト「コラボノート」を利用し、自由に書き込む形式で意見を交換し、学び合えるようにした。なお、本音で話し合うことをねらい、匿名形式を取り入れた。

2 授業の反省(○学びが成立 ●学びが停滞した場面とその原因) 児童の姿をとらえて

- 学習活動3の話し合い活動では、「消費税を上げるべきか？」という課題に対する賛成・反対意見とそう思う理由等、自分の考えをノートに書いてからコラボノートでの話し合いを展開したので、話し合いをスムーズに行うことができた。
- 学習活動4の各グループの発表を聞く活動では、各グループの話し合いの結果を画面上に映し、その画面を見ながら各グループの発表をしたので、それぞれの相違点についても分かりやすかった。
- グループ毎に話し合いをし、それぞれの話し合いについてグループ毎の発表を聞いた後、学習活動5の振り返る活動で、自分の考えが最初と変化をした児童が2名いたので、話し合った効果があった。
- 学習活動3の話し合い活動では、教師が児童の考えを整理したり、画面上でアドバイスをしたりしていたために、コラボノートへの書き込みがうまくいかない児童もいたがその児童への支援が十分にできなかった。必要に応じて、口頭でも話し合いができるとよかった。
- コラボノート上での話し合いだったので、大変静かだった。途中で、話し合いの中から出た意見を教師が意図的に取り上げ、紹介し、揺さ振りをかけて話し合いを深める方法も考えられた。

3 研究会から学んだこと、これからの課題、今後取り組んでいきたいことなど(研究主題と関連付けて)

- ・6年生の児童の実態がありコラボノートを取り入れた話し合い活動を展開したが、メール感覚で話し合う学習は子どもたちにすんなりと受け入れられ、自ら考え、意欲的に学び合う上で効果があることが分かった。
- ・高学年になると本音を言いづらくなるので、今回は社会科の授業だったが、道徳や学活などの授業でもコラボノートを利用した授業の展開が期待できそうだ。
- ・ICTを活用した協働学習のパターンを児童は身に付けている。今回は、導入の段階での話し合いだったので、友達の意見に対して書き込みをするだけの感覚的なディベートだった。今後は、事実をある程度認識させた上で、友達に対するコメントも根拠を伴った書き込みをしてディベートを行い、より膨らみが見られるようにしていきたい。そして、深まりのある学び合いを目指していきたい。